

## 地方創生/地域活性化

国際協力機構（JICA）国内事業部

## 1. 一年間の議論、報告の振り返り

## 1) 第1回 NGO-JICA 協議会

## 【事例1】地域の国際化、活性化に草の根技術協力事業を活用した事例

地震で甚大な被害を受けたという共通点を持つ宮城県東松島市とインドネシア国バンダ・アチエは、持続可能な地域復興という共通目標をもつことから、草の根技術協力事業で四つの主要課題（持続可能なまちづくり、地域防災、コミュニティ・ビジネス、機能的な地域行政組織作り）に関して、両市民の主体者意識を促す活動を展開。

## 【事例2】途上国の課題解決の手法を日本で有効活用した事例

特定非営利活動法人 シェア＝国際保健協力市民の会が海外での活動経験を活用し、国内の学校で「参加者が一緒に考える」エイズ教育をゲームワークショップ中心に実施。

## 【事例3】途上国の課題解決から国内の課題解決へとつながった事例

特定非営利活動法人 アクシオンの実施した草の根技術協力事業に関し、フィリピンの養護施設の子どもたちにダンスを教えていた日本のダンス講師が、本プロジェクトがきっかけとなり、近隣市の養護施設で、子どもたちに無料のダンスレッスンを提供。

## 2) 第2回 NGO-JICA 協議会

## 【事例1】佛子園（石川県）による草の根技術協力事業事例

石川県の社会福祉法人佛子園が佛子園の沿革、ブータンで実施している草の根技術協力事業の障害者支援の活動紹介がプロジェクトマネージャーからあり、JICA 北陸より JICA からの気づきの視点につき補足のコメントがあった。

## 【事例2】ソーシャルファームから国際協力へ～北海道のチャレンジ～

社会課題に向き合わざるを得ない北海道の地域の課題と世界の課題とを紐づけることを視野にいたした活動や人材の育成について、北海道国際交流センター(HIF)より発表があった。

## 【事例3】JICA ボランティアの日本社会への貢献

JICA ボランティアの進路・就職状況及び支援策や地域での活躍事例、新たな事業としてのグローバル協力隊について、JICA 青年海外協力隊事務局から発表があった。併せて、JICA 国際協力人材部より、国際協力に関わる人と団体を結び、双方に有用な情報を提供する総合情報サイト「PARTNER」の可能性について発表があった。

## 3) 第3回 NGO-JICA 協議会

## 【事例1】草の根技術協力事業（地域活性化枠）の学びから

静岡県・天竜厚生会（静岡県）・シャンティ国際ボランティア会が共同で、カンボジアにおいて草の根技術協力事業として実施している幼児教育の質改善事業について、本プロジェクトに従事している天竜厚生会の保育士から説明があり、地方活性化事業からの学びについて意見交換がされた。

## 【事例2】JICA ボランティアの活用/青年海外協力協会（JOCA）の地域活性化の取り組み

JICA 青年海外協力隊事務局より、JICA ボランティアの活用として、グローバル協力隊についての趣旨や目的、実施内容や選考状況についての報告があり、併せて、青年海外協力協会（JOCA）より、青年海外協力隊経験者による帰国後の地域活性化の取り組

み事例の説明がされた。

## 2. 年間テーマ「地方創生/地域活性化」の協議を通じて得た学び

### 1) 地域活性化における国際協力活動の意義、成果

- ・ 地方に新しい視点を持ち込むことによる閉塞感の打破（「新しい風」）
- ・ 国際協力活動の計画策定や実施の過程を通じて、業務の原点を見直し、日本国内の業務をより魅力的に構築できる。これにより人材の養成、離職防止、確保につながる側面もある。
  
- ・ 国際協力 NGO による国内の地域福祉への貢献は、従来の施設中心型から地域社会中心型の移行に繋がり、SDG が掲げるインクルージョン（包摂性）につながる
  
- ・ 途上国での活動や解決手法の日本の地域の課題解決への適用の可能性（課題を発見する参加型開発手法（PCM）、新しいコミュニティに入る時の手法、主役でなく支援者としての立場等）
  
- ・ 国際協力活動を経て、日本国内の業務における日本在住外国人への対応力の向上
  
- ・ 海外の方がより経験を持つ社会課題の解決手法の日本への適用可能性

### 2) 地域活性化における国際協力活動の課題

- ・ 国際開発の視点のみでなく、日本の地域の課題を理解し、コミュニケーション能力を持つ人材の不足。
- ・ （地域の課題を担う多様なアクターとのつながりを持つために）NGO のミッションだけでなく、行政や企業文化への理解の強化。
- ・ 事例が少なく、今後の蓄積、意見交換が必要

以上

別添：JICA パンフレット「日本の若者が見た、感じた、国際協力と地域活性化」のご紹介



日本の若者が見た、感じた、

# 国際協力と地域活性化



International cooperation



Regional revitalization



# JICAは途上国のニーズと日本国内の地域リソースをつなぐ架け橋

2015年、ODA(政府開発援助)60周年を機に開発協力大綱が改定されました。それには、国際社会が直面する課題解決と持続的成長には国際協力機関のみならず、企業や地方自治体、非政府組織、大学等が有する知見が必要不可欠であり、これらアクターと開発途上国との結節点としてのJICAの役割についても明記されています。

また、開発途上国支援のため、我が国の経験や知見を深く掘り起こす活動は、同時に地域活性化に対しても貢献しようと考えており、少しずつですが着実に、その成果が表れています。このパンフレットではそのような事例を集めました。JICAは今後も開発途上国と日本の地域を繋ぐ架け橋となり、開発途上国も日本の地域もJICAもWin-Win-Winの関係が築けるよう取組みを続けていきます。



## パンフレット作成支援

### なんとかしなきゃ!プロジェクト(なんプロ)※1 著名人

谷中修吾氏 / ビジネスプロデューサー・BBT大学 准教授



オープンイノベーションによる事業開発の専門家。様々な地方創生ソーシャルビジネスの創出を手がける。地方創生イノベータープラットフォーム INSPIRE 代表理事/総合プロデューサーを務める。

(オフィシャルサイト)

<http://www.shugo-yanaka.com/>

※1 国際協力 NGO センター (JANIC)、国連開発計画 (UNDP) 駐日事務所、JICA が協賛で取り組む、途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を見つけるための参加促進プロジェクトです。ウェブサイトや SNS の専用ページを通じて、さまざまな国際協力の情報も発信しています。

## 各事例のインタビューをお手伝い下さった、6人の「なんとかしなきゃ!プロジェクト 学生レポーター」<sup>※2</sup>

本人の学年はパンフレット作成当時のもの



荒井大貴さん  
慶応義塾修士課程 : 2年



斉藤万学さん  
法政大学 : 3年



岩田夏実さん  
中央大学 : 2年



坂野晴子さん  
津田塾大学 : 3年

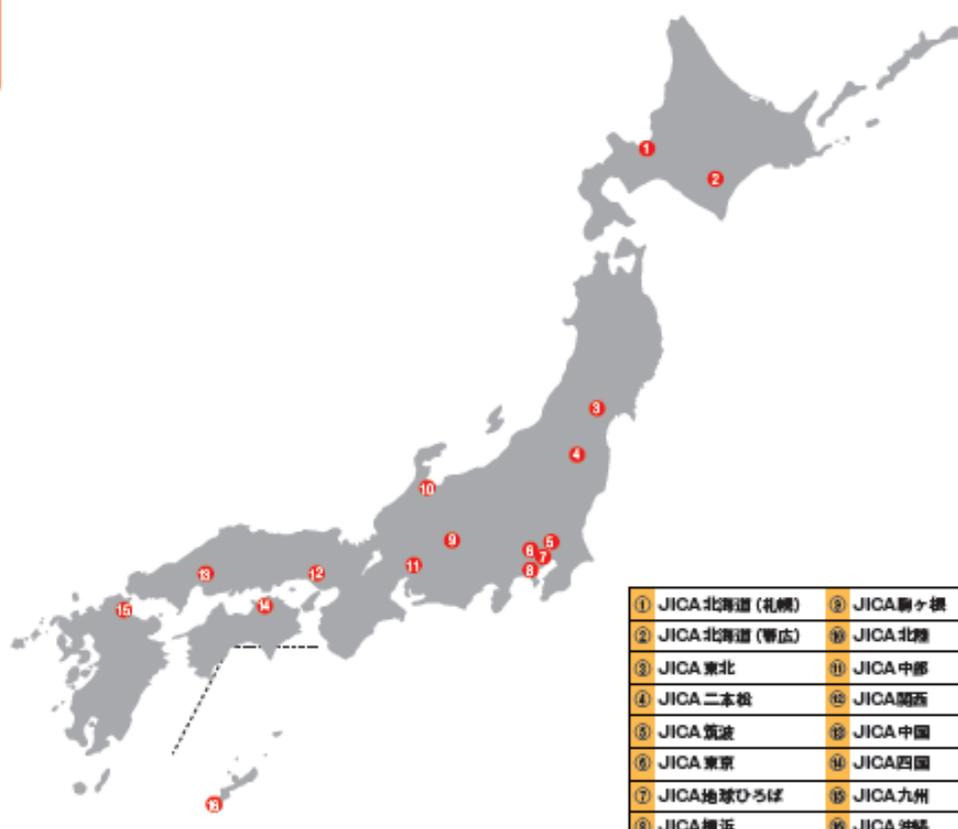


山口紗都美さん  
麗澤大学 : 3年



松本和也さん  
神戸大学修士前期 : 1年

※2 「これからの国際協力を担う若者世代により広く世界の姿を知ってもらい、自分にもできる協力の形を築いてほしい」というなんプロの思いを実現するため、JICA 広報室に原稿された13人の現役大学生・大学院生、若者ならではの目線での情報や活動も発信し、より多くの若者に国際協力に関心をもちもらうための活動が期待されている。



① JICA北海道(札幌)	⑧ JICA關ヶ嶽
② JICA北海道(帯広)	⑨ JICA北陸
③ JICA東北	⑩ JICA中部
④ JICA二本松	⑪ JICA関西
⑤ JICA筑波	⑫ JICA中国
⑥ JICA東京	⑬ JICA四国
⑦ JICA地球ひろば	⑭ JICA九州
⑧ JICA横浜	⑮ JICA沖縄